

講義名	ジェンダー論			授業形態	
担当教員	水野 英莉 / 桑原 桃音	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生
				ナンバリング	

主題と概要

身近な話題から理解するジェンダー入門
ジェンダーとは、社会的・文化的につくられた性(女らしさ、男らしさ)のことです。この講義では、受講生にとって身近な素材から、ジェンダーにかかわる常識や当たり前を問い直していきます。この問いを繰り返すことにより、柔軟な考え方や幅広い視野を手に入れることを目的としています。ここで得る知識と視野は、日常生活や自分の人生設計(進路選択)を考えるうえで役立ちます。さらに、自分だけでなく、周囲の人の生きやすさを考える手立てとなるはずです。

授業方法について:
2名の教員によるオムニバス講義です。

到達目標

- (1)「女ならば/男ならば~しなければいけない」という「常識」に対する客観的な視点と、誰を好きになるか、自分の性は何かといった性自認等の問題を異性愛や男女二元論の特でしか考えないような「常識」に対する客観的な視点と、その「常識」を根本的に問い直し、考察する力を身につけることを目指す。
- (2)上記の能力を用いて、現代社会にあるジェンダーにかかわる具体例から、社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会のあらゆる領域にある性別の論議を批判的に検討し、個人が生きやすい社会のあり方について考察、提案することができる。
- (3)ジェンダーにまつわる「常識」とそれを支える社会の仕組み自体への問い直しを繰り返すことにより、柔軟な考え方や幅広い視野を手に入れることを目的とする。ここで得る知識と視野を、日常生活や自分の人生設計(進路選択)を考えるうえで役立て、さらに、自分だけでなく、周囲の人の生きやすさを考える手立てとしていく。
- (4)単なる知識のつめこみではなく、学んだことについて理解し、受講生にとって身近な素材から、ジェンダーにかかわる常識や当たり前を問い直し、なぜ自分がそう考えるのかを他者に伝える力も身につけていく。

提出課題

講義内で提出するワークシート、小レポート、Respon
中間と期末に課されるレポート

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

前述に行った課題やレスポンのコメント・質問に対し、回答します。

評価の基準

平常点(50%)：毎回配布するワークシートや小レポート
レポート(50%)：講義内容および教員が指示した文献の内容をふまえて、論述する

履修にあたっての注意・助言他

Respon、Teams、Streamというアプリを利用するので、初回授業の指示に従って速やかに準備を整えること。
毎週講義前にはRyuka Portalを確認すること。
教科書を使用するので、必ず準備すること。

下段にある「双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述」をよく読んでおくこと。

教科書

.ジェンダー論をつかむ。	千田有紀ほか編	有斐閣	1900	978-4-641-17716-1
--------------	---------	-----	------	-------------------

参考図書

その他

資料
必要に応じて、Ryuka Portalを通じ配布する。参考文献も講義中に適宜指示する。
講義では、理解を深めるため、映像資料やウェブ上のサイトなども利用する。

参考文献
加藤秀一『はじめてのジェンダー論』有斐閣、2017年、19000円、ISBN:978-4-641-15039-3
桑原桃音『大正期の結婚相談』晃洋書房、2017年、3000円、ISBN:978-4-771-028661

授業計画

- 1.性別とは何か(unit1)
- 2.ジェンダーをとらえなおす(unit2)
- 3.近代家族とジェンダー(unit4)
- 4.無業労働とワーク(unit14)
- 5.ストリートハラスメント、デートDV(unit15)
- 6.性と生殖に関する権利(unit20)
- 7.中間レポート
- 8.女性の労働と賃金格差(unit7)
- 9.職場慣行(unit8)
- 10.かくむたかりコミュニティ(unit11)
- 11.教育の男女格差(unit12)
- 12.参政権と政治参加における男女格差(unit18)
- 13.クィアとトランスジェンダー(unit22)
- 14.最終レポート
- 15.まとめ

授業形態(アクティブ・ラーニング)

○	A:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
□	U:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
◇	O:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
△	キ:その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習:講義前に教科書を一読し、気になるころなどにアンダーラインを入れて、思いついたことをメモする。
復習1:講義内で得た情報をまとめたノートを作り返す。わからないことを調べ。
復習2:講義で得た知識を踏まえて簡単な文章を書く。それが小レポートやレポートにつながっていく。
自主学習時間:計60時間

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目では学校や家族、市場や国家など、さまざまな領域にわたって振り分けられてきた「男」や「女」のあり方をめぐる「常識」を問い直すこと、問い直す意義を理解し、考える能力を身につけることができる。

ジェンダーにかかわる問題を生じさせる社会の仕組みや働きを解き明かし、そのあり方を根本的に問い直し、そのために必要な専門的な知識を修得し、理解し、考えることができる能力を培う。

また、「社会人」として、性別、性的指向に関わる「常識」によって搾取、差別されることのない、より良い社会の形成に貢献するために、自分ができること、社会的に変わらなければならないことを考え、何らかの提案ができる能力を培う。

これらの能力は、性別、性的指向、性自認などによって生きやすさを奪われない社会の実現と、性別にとらわれずに個人がのびのびと自己実現しながら、労働し、生活する社会の実現のために必要不可欠な能力である。
また、授業内容を理解したうえで生じた自分の考えを相手にわかりやすく伝え、さらに他学生の意見に傾聴し、グループでより良い具体的なアイデアや提案をするなどして、コミュニケーション能力を身につけ、実践的に活用することができるようにする。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

スマートフォン、PC、タブレット等のいづれかを準備してください。

教材は授業内で配布します。感染拡大時の対応として、事前にパワーポイント等の資料のPDFをRyukaPortal等にアップロードする場合があります。

アプリとしてはRespon、Teams、Streamのいくつかを使う予定です。

また学内メールアドレス、パスワードをあらかじめ確認しておいてください。

実務経験の有無及び活用

備考

感染者、または濃厚接触者に指定され、一時的に通字が禁止される学生への対応について
1)欠席しなければならぬ授業の実施日以降の2週間以内に、復帰後出席した授業時が、もしくは指定した問合せ先にメールすること。
2)その際に、対応方法、提出が必要な課題や書類等を教員から指示します。

教科書を指定していますが、教科書の執筆者と担当教員の見解は必ずしも一致しません(特にトランスジェンダーをめぐる問題について)。